

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第37号

平成29年11月1日発行
発行/千葉県がんセンター

理念
心と体にやさしく、希望の持てるがん医療

私たちは一人でも多くの患者さんに
質の高いがん治療を提供します。

雑感－患者になって

千葉県がんセンター 副病院長 ^{いし}石 ^い井 ^{たけし}猛



「先生具合悪いのですか、歩き方が変ですよ」
外来後自室に戻るときに、
患者さんから声をかけられた。
5年以上前からときどき心房細動の発作が
出ていたが次第に症状が悪化。
抗不整脈薬など3種類の内服でも定期的に
発作は起き脈拍は150を
超え自覚的動悸もひどく、

歩くのもつらい。これはアブレーションを受けるしかない
と決心した。[内服薬について]: 6時、14時、22時に
飲む抗不整脈薬を14時はしばしば忘れた。8時間ご
との薬は、自分はできる限り患者さんには出すまいと
思った。[リスク説明]: 頻度は低い心タンポナーデ
(ごくまれに死に至ることも) 脳梗塞等々、面と向か
つて言われると気分はよくない。[大部屋]: 個室予約も、
急患がはいたため4人部屋に。隣の心不全の患者さん
の排尿の音が気になったが、他の患者さんとの病気の
話は苦ではなく面白かった。床上排泄がなければ大部
屋でもよいと思った。[色々な看護師さん (Ns)]:
ECGモニタリングしている端子がしばしばとれた。肌
が弱いのでソフトタイプが使用されていたが「このタ
イプはとれやすいですよ、張り直しますね」という
Nsもいれば、「えー、また取れたの、もう少しじっとし
ていてください」というNsもいた。自分としてはでき

る限りじっとしていたのに「えー、また取れたの」は
余分だ。バルン留置は自分にはとても痛かった。「尿量
測りますね」「痛いのでそっとお願いします」「バルンが
とても痛いヒト時々いますね。ソーツと計ります」と
言うNsもいれば、いきなり管をブランブラン揺すりな
がら(イテテ)「尿量測ります」というNsもいた。言葉
が足りない。[痛みに対する対応]: アブレーション後、
カテ刺入部の右足は延ばしたままベッド上安静。時間
が経ってくると腰が痛くなりかなりつらい。巡視のNs
に「腰が痛くてたまらないです」「皆さんそう言いま
すよ。もう少しで安静解除されれば、よくなりますから」
えー、痛み止めくれない。気の弱い自分は痛み止めく
れといえず、1時間半我慢。当院のNsなら間違いなく
痛み止めの話がでるところだが、循環器科病棟は痛み
止めに対する文化が違うのか。[退院日の発作]: 退院
当日の朝食後、なにやらまた胸がドキドキ。Nsがとん
できて「すぐに主治医呼びます」。主治医がきて「心
房細動の発作ですが、大丈夫ですよ、術後一時的に発
作が再発することはまれではありませんから」。「大丈
夫ですよ」の一言がとてもうれしい。医療の進歩の恩
恵にあずかり現在は元気に働くことができ、とても
感謝。医師や看護師は、一度は患者になったほうがよ
いと言われるが、患者の立場になると、医師、看護師
らの一言で、こちらの気持ちが全く変わることを実感
した。忙しい診療の毎日でも、思いやりのある、ほん
のひとことで患者さんの気持ちがとても変わることを、
色々な医療者には是非知ってもらいたいと思った。

臨床の現場から

核医学診療の現状と展望

核医学診療部 部長 久山 順平

平

成29年4月より核医学診療部長を拝命致しました。現在医師2名・放射線技師3名の体制で核医学診療を実施しております。2016年12月には新たなガンマカメラが導入され、ガンマカメラ2台とPET-CTカメラ1台を用いて年間約4000件の核医学検査を実施しています。核医学画像は医用画像の標準的規格への対応が遅れていたために、それまで検査結果の提供はフィルムへの出力から離脱することができずにいましたが、やっとフィルムレスの運用が可能となりました。同時に導入された読影環境・画像処理環境の利用により、今までよりも質の高い画像を臨床現場に還元していくことを目標としています。がんセンターとしての本院の性質上、どうしても腫瘍検出を目的とした検査が多く、F-18 FDG PET-CTと骨スキャンが全体の90%以上の比率を占めているのが現状ですが、神経内分



泌腫瘍の評価に力を発揮するシンチグラフィなど新たに臨床利用の始まった薬剤もあり、核医学を治療の現場に広く活用していただくよう多彩な検査の周知・広報に務めることの必要性を痛感しております。

核医学診療においてはこうした画像検査と共に、アイソトープの発する放射線を治療に応用する「内照射治療」があり、こちらも今後より一層伸ばしていかねばならぬ柱であると感じています。内照射治療は長らくヨウ素I-131から放出される電子線を利用した甲状腺がんや甲状腺機能亢進症の治療に限られていましたが、日本でもこの10年ほどで濾胞性リンパ腫の治療に効果のあるイットリウムY-90ゼバリン、骨転移病巣の痛みの制御に効果のあるストロンチウムSr-89メタストロンなどの臨床利用が可能となり、昨年からはアルファ粒子を放出するラジウムRa-223ゾーフィゴが前立腺がんの骨転移治療の現場に登場しています。このように「内照射治療」の領域は今後の我が国の医療の成長分野と期待されます。しかし一方で、アイソトープ治療の病床数は全国的に減少を続けており、核医学診療が患者さん・臨床現場のニーズに応えられていない分野でもあります。幸い千葉県がんセンターでは2020年オープン予定の新病院においても（現状の1室を上回る）3室のアイソトープ病室が確保されております。

核医学診療部スタッフはこうした検査機器や治療設備が十分に活用されるよう本センターの各科の先生方や患者さんのご紹介をいただき先生方との連携に務めてまいりたいと考えております。宜しくお願い申し上げます。

病院機能評価（3rdG:ver1.1）の認定が更新されました。

信頼される病院であるために、千葉県がんセンターは医療の質の向上のための取組みとして、（公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG:ver1.1）を受審し、認定証の更新を致しました。

有効期間：5年間 自2017年5月20日 至2022年5月19日

（公財）日本医療機能評価機構は1995年に設立された第三者的な立場で病院など医療機関の機能を学術的観点から中立的な立場で評価を始めました。3rdG:ver1.1では89項目について書面と訪問審査による厳密な評価が行われ、一定の基準に達している病院にのみ認定証が交付されます。

当センターでは約1年をかけて受審のための準備を行ってきました。

病院長及び、病院機能改善委員会の委員である各診療部長をはじめとして各局長、各部長、そして職員の皆様の御努力により認定更新はなされました。

皆様の御努力で勝ち取った認定表は、センター長室前ラウンジ、外来フロントなど院内各所に掲示しておりますので、皆様も是非御覧下さい。

なお、2017年7月の時点で同機構により認定された病院は、全国で2,177施設となっております。



一般病院



緩和ケア病院

地域医療連携室だより

「感染対策推進室が設置されました。」

感染対策推進室 感染管理認定看護師 前田佐知子

平

成29年4月から、医療安全管理体制強化の一環として、感染対策推進室が設置されました。構成員は、インфекション・コントロールドクターの内科医師1名、感染管理認定看護師1名（専従）、感

染制御認定検査技師1名、臨床検査技師1名、薬剤師2名です。

平成19年より感染対策チームとして活動してきましたが、10年を経て部門化されました。これを機に、患者さんが、より安心して治療を受けることができるよう病棟・外来ともに感染防止対策が適切に実践されるように邁進していきます。

感染予防の基本は、適切なタイミングで手を洗うことです。また、病原体の発生源をなくすために、かびやほこりがない衛生的な環境を保つこと、病院で使用する器具を正しく処理することが必要です。さらには、ワクチンで防ぐことができる病気に対してはワクチンで抵抗力を高めること、適切な感染症診療によって抗菌薬を無制限に使わないことにも組織として取り組んでいます。手を洗うことや衛生的な環境を保つことなどは、職員だけではなく、患者さんとともに実行することで感染予防につながります。

ところで、皆さんは普段の生活で、どのように手を洗っていますか？

仕事柄、駅のトイレに入ったときに、周囲の人が手を洗っているか観察をしてみると、ほとんどの方が数秒、水で指先を洗うだけでした。じつは、それでは手についた汚れやばい

菌を洗うことができません。手の汚れを落とすために、石けんの泡で汚れを取り去ることが大切です。目に見える汚れが無い場合であれば、擦式アルコール手指消毒剤による手指消毒が効果的です。石けん手洗いの場合は、最低でも1分、アルコール手指消毒では30秒かかります。なお、手の皮膚に異常がある場合やアルコールでかぶれてしまう方は、擦式アルコール手指消毒剤は使用せず、水で汚れを落とすように十分洗うか、可能な場合は石けん手洗いを行って下さい。

感染対策推進室では、職員が適切なタイミングで手指消毒を実践するように啓発活動をしています。特に、患者さんに触れる前と、清潔・無菌操作（処置）前の手指消毒を確実に実施するよう教育しています。患者さんを守る手指消毒のために、少しの間お待たせすることがあるかもしれませんが、ご理解いただけると幸いです。患者さん・ご家族の方は、食事前やトイレの後に石けん手洗いをし、清潔なタオルで手をふき取ることが大切です。「ハッピーバースデー」の歌を2回歌うと30秒になります。手を洗った後は、乾燥を防ぐため適度にハンドクリームを使うことをお勧めします。

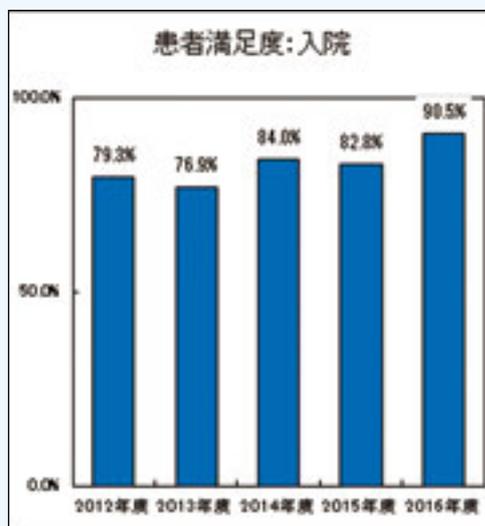
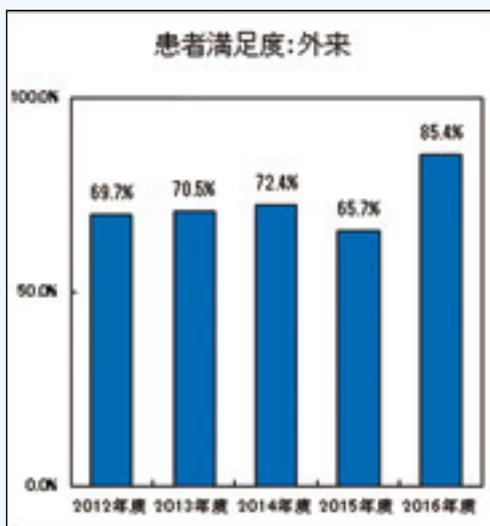


診療実績

医療の質指標(2012～2016年度) 診療情報管理室

提

供した医療サービスに満足していただくことは、医療の質を評価する上で大変重要です。昨年度の患者満足度は入院・外来共に上昇しました。今後も当センターの医療に満足していただくよう、全職員で取り組んでいきます。



初診担当医表

2017年10月1日現在

【予約受付時間】

月曜日～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

9時～17時

診療科	月	火	水	木	金
肝胆膵外科	千葉 聡	高山 亘	高山 亘 石毛 文隆	柳橋 浩男	千葉 聡 石毛 文隆
食道・胃腸外科	池田 篤亨 外岡 亨	鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 池田 篤	鍋谷 圭宏 滝口 伸浩	早田 浩明 星野 敢
消化器内科	傳田 忠道 廣中 秀一 鈴木 拓人 喜多絵美里	傳田 忠道 須藤研太郎 三梨 桂子	山口 武人 傳田 忠道 廣中 秀一 中村 和貴	傳田 忠道 廣中 秀一 鈴木 拓人 辻本 彰子	中村 和貴 須藤研太郎 三梨 桂子 北川 善康
呼吸器外科	岩田 剛和		飯笹 俊彦 岩田 剛和 松井由紀子		岩田 剛和 松井由紀子
呼吸器内科	芦沼 宏典 水野 里子	新行内雅斗 吉田 泰司 芦沼 宏典		新行内雅斗 吉田 泰司 水野 里子	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 味八木寿子	味八木寿子 坂本 敏哉 (担当医)	中村 力也 坂本 敏哉	(担当医)	中村 力也 味八木寿子 坂本 敏哉
形成外科				徳元 秀樹	徳元 秀樹
婦人科	大崎 達也	田中 尚武 鈴鹿 清美 (腹腔鏡手術)		田中 尚武 鈴鹿 清美	
泌尿器科	小丸 淳 植村 俊彦	篠崎 哲男	大塚 真史 鎌迫 智彦	小林 将行 竹下 暢重	深沢 賢 篠崎 哲男
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 伊勢美樹子	辻村 秀樹 菅原 武明	熊谷 匡也 菅原 武明	熊谷 匡也 伊勢美樹子	熊谷 匡也 辻村 秀樹
脳神経外科	井内 俊彦	(担当医)	井内 俊彦	(担当医)	堺田 司
頭頸科	(担当医)	佐々木慶太 佐々原 剛 木下 崇		佐々木慶太 佐々原 剛 大熊 雄介	
整形外科	石井 猛 米本 司 塚西 敏則	石井 猛 鴨田 博人		石井 猛	米本 司 鴨田 博人 塚西 敏則
緩和医療科	秋月 晶子	秋月 晶子		秋月 晶子	秋月 晶子
精神腫瘍科	秋月 伸哉	秋月 伸哉		秋月 伸哉	秋月 伸哉
核医学診療部		小川 和行	久山 順平	久山 順平	小川 和行

【診療予約のご案内】

予約電話 043-264-5431 (代表番号) 地域医療連携室 予約担当

*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。

*初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

研究の現場から

「遺伝子解析からがん診断・治療の改善を目指して」

千葉県がんセンター研究所 腫瘍ゲノム研究室
下里 修

遺

伝子の異常はがんの発生原因であるだけでなく、分子標的薬による治療効果の差やその治療薬に対する抵抗性獲得の原因になります。そのため、がん固有の遺伝子異常を調べその意義を検討することは、がん患者さんの遺伝子情報に基づいて最適化したがん医療を提供するための仕組み作りにおいて重要な基礎研究となります。腫瘍ゲノム研究室ではがん細胞が持つ遺伝子異常の全体的な特徴を詳細に調べ、がんの悪性形質（進行・再発・転移のし易さや治療に対する感受性など）との関係を検

討しています。これらの成果の一部は、遺伝子発現パターンから小児がんの治療効果を予測する技術開発に結実しています。さらに、血液試料を用いて簡便に「がん」を診断する新技術の開発にも研究所内外の研究室と連携して取り組み、一定の成果が得られています。これからも当センター各診療科と連携してこの技術の実用化を目指し、がんの診断・治療の改善に貢献します。



「難治性がんの新たな治療法開発を目指して」

千葉県がんセンター研究所 がん先進治療開発研究室
高取 敦志

多

くのがんでは遺伝子レベルでの異常が発生の原因となっていることが知られています。その異常となっている遺伝子を見つけ、それが関わるがん発生の仕組みを理解することは新たな治療法を開発する上で必要不可欠です。がん先進治療開発研究室では2010年より難治性腫瘍（特に神経芽腫）の発がん研究を中心に分子遺伝学的研究を導入し、発がんの本態解明を基盤としつつ、新しいゲノム診断法の開発と、独自に見出した発がんの関連遺伝子を標的とする創薬へと展開してきました。その中で得られた候補化合物は臨床応用を目指し、現在はMYCN遺伝子を標的とした化合物について製薬会社との共同研究を

進めています。将来の難治性がん撲滅にむけて、より有効で副作用の少ない治療法を提供するべく、今後とも医療局の先生方やコメディカルの職員の皆さんと積極的に情報交換を行いながら、基礎研究に裏打ちされた橋渡し研究を着実に進めていきます。



がん予防展2017

がん予防展が平成29年9月2日（土）、3日（日）10時から17時まで、イオンタウンユーカリが丘で開催されました。会場のさくらの広場では、「がん相談」「がん細胞コーナー」胃がん模型を用いた「内視鏡体験コーナー」「がんと向き合う食事コーナー」「血管年齢測定」「喫煙度チェック」「口腔がんコーナー」など、体験しながら学べるものを中心にブースが出されました。4日には乳がん無料検診が行われ、ケアフードでは試食会も行われました。また、がん講演会が平成29年9月9日（土）13時から16時まで佐倉市民音楽ホールで開催されました。講師にちば県民保健予

防財団診療部長の橋本秀行さんと女優の生稲晃子さんを招いての講演会になりました。当日は天候に恵まれ、事前申込みの方以外にも多くの方に来ていただきました。今回の講演会で、がん予防や早期発見の重要性について認識を深めていただく貴重な機会となりました。



「サイエンスの世界へようこそ！」

自然界で観察される多種多様な現象の仕組みを解き明かしてみたいという好奇心は、様々な「きっかけ」によって大きく膨らむことがあります。この「科学的好奇心」を刺激し「心の豊かさ」と「知的創造性」を育む場として、日本学術振興会では全国の小中高生を対象とした支援事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」を行っています。昨年度に引き続き本年度においても千葉県がんセンター研究所が企画した事業案が採択され、夏休み期間中の8月9日に実施されました。

例年と同様に全国の中高生から100名を超える応募があり、厳正な審査で選ばれた24名の受講生が生命科学の最前線で実践されている実験法を駆使して遺伝子と体質の関係を学びました。無我夢中にそして真剣に実験を行う受講生たち、学校の授業では得られない深遠な「サイエンスの世界」の一端を垣間見たのではないのでしょうか。今回も1日間という短い日程でしたが、当研究所での体験が「きっかけ」となって受講生の中から次世代を担う研究者が生まれることを期待します。



実験中の様子。精密な実験機器の操作に集中しています。

「夢に向かってチャレンジ！」

千葉県がんセンター研究所では社会貢献活動の一環として、夏休み期間に中高校生を対象としたサイエンススクールを開催し、千葉県教育庁が主催する「千葉県夢チャレンジ体験スクール」事業に協力してきました。13回目の開催となる本年度は8月2日から8月4日までの3日間の日程で実施され、千葉県内在学の中高生24名が受講しました。



病院職員との交流会。皆さん、熱心に聞いています。

当プログラムは具体的な実験を通して遺伝子と体質の関係を学ぶという内容ですが、実は実験を指導するだけではありません。キャリア教育の一つとして専門知識や資格を持つ様々な職種の病院職員との懇談会も含まれていて、受講生自身の将来を考える良い機会になったと思います。閉講式を終えて現地解散となったあとも研究所員たちと名残惜しそうに談笑している様子から、受講生たちは有意義な3日間を過ごしたのではないかと推察します。末筆ながら、サイエンススクールの実施にご協力をいただいた関係者の皆様方にお礼申し上げます。

千葉県がんセンター研究所 腫瘍ゲノム研究室 下里 修



JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス: 誉田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR鎌取駅から 所要時間:約13分

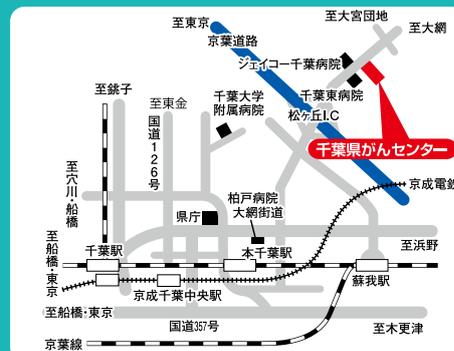
千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側



千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>